

SHARP

シャープ社友会

栃 木 支 部

2001/5

総 会 号 (第8号)

日
光

栃 木

発行責任者
浦 川 正 司



タイトル： 紺碧の空に、燦々と輝く日の光、緑豊かな大地。自然に恵まれた栃木をシンボルします。
と、同時に当地を代表する観光名所“日光”を顕わします。

カラーコンセプト： 日光の赤 (R)、栃木の緑 (G)、バックの青 (B) は、カラーテレビの信号の、
R・G・Bをイメージし、AVシステム事業本部のルーツを象徴します。
同時に、グリーンは社友会のシンボルカラーでもあります。

写真撮影 田中 勇 氏 (会員番号 451) 日光 輪王寺(家光公廟)



輝かしい二〇〇一年の年頭に当たり、

熊鷹稲荷神社 年頭祈願祭



社友会代表として祈願祭に参列し、拝殿に玉串奉納しました。熊鷹稲荷の御加護を賜り、デジタル情報時代の見通しの難しい年と予想されていますが、更なる挑戦で会社の益々のご発展と重ねて私達社友会皆様のご健勝ご多幸を祈願致しました。

(浦川 正司 記)

賀詞交換会盛大に

平成十三年の賀詞交換会は二月四、五日那須温泉ホテル「アズマ」にて三十六名の会員と、来賓として労働組合より中村副委員長長の三十七名を迎えて盛大に行われた。来賓の中村副委員長からは、労組近況のご紹介があり、浦川支部長よりは、日頃の活動への御礼と共にクラブ活動として、パソコンクラブ「メビウスクラブ」が新しく発足し社友会報「日光」を手始めにIT時代に乗り遅れないよう、パソコンを通じて会員のコミュニケーション活性化に寄与することの期待が表明された。

本年度新入会員をご紹介の後、岩村 博氏(最若年会員)の乾杯の音頭により宴会に入り、会員相互の健康を祝し、諸会合に出席していることが元気の証明、趣味のこと、地域活動、家族の近況など話題が尽きないうちに午後八時すぎ中締めとした。

(仲谷 輝郎 記)



メビウスクラブ本格スタート
 昨年、会則の作成等の準備を進めて来ましたが、今年の一月十五日に十四名のメンバーでスタートしました。更なる新会員のご参加をお待ちしています。
 (メンバー一同)



『パソコンって、肩こるなあー』
 「ええがな、ええがな。肩もんだるがな」
 『あかん、あかん。マウスが滑ってうまいこと クリックでけへんがな』
 「そんなことあれへん。もともとあんたがへたくそやから、でけへんだけや。」
 (この会話は難解で一太郎では、かな漢字変換ができませんので、ご了承下さい。)

『ワード』『エクセル』『一太郎』『花子』『筆まめ』を始め、各種パソコン練習ソフト、キーボード入力練習ソフトも整っています。四月十三日には、インターネットも接続完了し、何でも出来ますので、是非、メビウスクラブへのご入会をお勧めします。



夢をさがして

支部長 浦川 正司

希望にあふれる初春を迎えて早や五月と経過し、それぞれ計画された事項も一歩一歩と踏み出された事と推察致します。

当支部も新世紀に向けスタートし、夢への再挑戦と会報七号に記載しましたが、過日の役員会で私も七十歳となり、又役員も十年と経緯しており世代交代の申し出を致しました。が了承されず、あと一期継続せよとの拝命により現職を引き受けました。改めて会員各位のご支援を重ねてお願い申し上げます。再任に当たり反省と要望を述べさせて戴きます。

支部活動の運営は何をさて置き会員各位の行事参加が第一であります。

役員会で企画されます行事内容も全てが、充分満足いただける物ではない面もあると思考しますが、参加者数を振り返りますと会員総数の二十％～三十％の参加率であり、共に

楽しく活動して要るとは申しがたいと思います。組織活動をご理解戴き、私達は年々歳を重ねて行き昔の現役時代が懐かしく皆さんとの対話・談笑が一番の健康薬と思います。老人介護の問題は他人ごとでなく、いつ我が身にと？ふと考える年頃です。そのうち〇〇〇を繰り返す事なく支部運営に活発なご提案を戴き、運営の革新を図ってさらに飛躍しましょう。

健康造りに「歩こう会」が発足し、ボケ防止と勉強会に「メビウス・クラブ」が新設されています。自宅で個人趣味に頑張られるのも楽しいものですが、一歩外に踏み出して旧友達との談笑に花を咲かせて下さい。自然の花には季節がありますが、懇談の花には時を選ばれません、ご一考かたお願い致します。

更に今年度より高齢者対策として、福祉政策に明るい岩村副支部長が担当され、話題の介護問題等で色々と相談事があれば、社友会室に来訪戴き共に考えましょう、これから楽しい人生を共に談笑致しましょう。ふと思ひ出した詩があります。

生きている ということとは
誰かに 借りをつくること
生きていく ということとは
その借りを 返していくこと

誰かに借りたら 誰かに返そう
誰かに そうしてもらった様に
誰かに そうして あげよう

生きていく ということとは
だれかと 手をつなぐこと
つないだ手のぬくもりを
忘れないでいること

めぐり逢い
愛しい やがて別れの日
その時を 悔やまないように
今日を 明日を 生きよう
人は一人では 生きていけない
誰も一人では 生きていけない

(永 六輔 詩)

私達はそれぞれ社会の人達にお世話になり現在があります。この詩は何か心に滲みる物があります。もう一度読んで下さい。継続に当たり反省をくどくど述べ大変失礼な点が数多くあったとおもいますが、会員皆様のご賢察を賜り深く心よりお詫び申し上げます。支部も新役員体制で一段と飛躍すべく

夢をさがして

頑張ります。各位の更なるご支援と、協力を重ねてご依頼申し上げます。

三宝の声

一鳥に聞く

一鳥声あり

人心あり

空海

米沢・雪随想

大岩 努

シャープ在勤時から米沢（山形県）へは数え切れぬほど訪れております。

今年も又雪の中を通い詰めましたが、ご存知の大雪に車は途中で断念、列車通いとなりました。しかし、新幹線も時間が遅れ気味、やつと米沢駅に到着しても道路は渋滞し目的に着くまで予定時間をオーバーすること再三でありました。

雪国の生活の大変さを思い知らされましたが、同時に過酷な自然環境に、お互いが協力して立ち向かう人



々の思いやりを感じた年でもありませんた。

雪が降り道路は車で渋滞しますが、雪が酷ければ酷いほどスピードは落とし、交差点では信号のずっと手前で徐行します。そして、対向車の相手の顔を見て、会釈をして出方をうかがってから動き出します。

側道から国道にでる車が詰まってくると、国道の車は意識して、道をあけてくれます。関東地方の県外車に対しては特に親切です。

雪降れば道ゆずり合う北の街

小学生は横断歩道をきちんと手を上げて、車が止まるのを確認してから渡ります。渡り終わると振り返ってきつちりと挨拶をしてくれます。運転している人も笑顔を返します。

自然の脅威が少ない都会生活では人々の思いやりが希薄になってきたといわれております。でも、阪神大震災の時もそうでしたが、自然の脅威が襲い

掛かってきた時は、人間はやはりお互いを守りあう気持ちで芽生え、本来の優しさが湧き出してくるのでしょうか。

科学が進歩しても、どうしようもない大雪の中では、お互いの助け合いこそが支えになっています。

今年の冬は大雪に何度も出会いました。帰る時も、猛吹雪の中を駅まで送ってもらい、何とか新幹線に乗り込みます。

新幹線コーヒー一杯外は雪

ほっと一息、熱い車内販売のコーヒーを飲む時、やつと別世界を抜け出した安堵感に浸れるのであります。



定年後の私の生き方

鈴木 常忠

私は今定年を振り返って見て思うことは、趣味を通じて自分の好きな空手道、登山、その他の趣味を生かしての活動であると思っております。

昭和四十七年に病気で、右半身を無くした妻と今年で三十年を過ごしたことで定年後三年を向かえた。趣味を生かしたボランティア活動が少しづつでは有るがクラブ員が増加し現在二十名を越すまでになって来たことです。

このボランティア活動を通じて多くの子供達、多くの父母、多くの仲間を作る事が出来たことは私にとって最高の幸せであります。今は色々な人との人間関係も出来、又家での妻のボランティアも含めて定年後の生き甲斐であり、自分のためでもあると思いい心より喜んでおります。

内容はともかく子供達と声を張り上げて元気に動き回り自分の健康の元であると思っております。これからのボランティア活動に付いては多くの人と付き合いながら、自分自身の目

標である小さな子供達を初めとして五月年、壮年に限らず多くの人の参加を得てこの空手道を伸ばし、市の大会が出来るように発展させる事が出来れば私にとって最大の成果ではないかと願っております。

これから何年かかるかはわかりませんが自分自身の目標に向かって走れば最高の幸せではないかと思っております。私の様な趣味を生かしたボランティア活動もこれからの生き方の一つではないかと思えます。又これから高年齢の伸びが増加してくる、反面少子化の問題も有り色々な形での社会的なボランティア活動も必要なのではないかと思えます。

お互いに助け合いながら良い社会的なボランティア活動が必要ではないかと思えます。人が人を助ける又は見ると言うような、お互いに助け助けられる社会の仕組みを作るのがこれからの社会の生き方ではないかと思いい先を見据えたボランティア活動を心よりお願い致します。

私の方針は

「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」です。

福沢諭吉



四月六日、鈴木常忠氏ご令室(クニ)様
ご逝去、享年七十二歳。
ご令室のご逝去の報に接し深心よりご
冥福をお祈り申し上げます。

「日光」編集委員

一同

九州温泉郷めぐり

松山 清敏

二〇〇一年が明けた一月の末、久し振りに九州の地を訪れてみたい気持ちになり、格安ツアーを見つけ出掛ける事にした。

コースは別府・青島・指宿・雲仙の各温泉をバスで巡るもので四泊五日の行程である。

九州といえば全国的にも有名な温泉が数多く存在するが、今回訪れた各地の温泉はいずれも泉質も良く風情のある温泉ばかりで、温



泉好きの小生にとっては充分満足の出来るものであった。(旅行会社のPRではありません) 中でも『指宿温泉』には、温泉の地熱を利用した「砂ブロー」があり、程良い温度の砂をかぶせられる心地良さはサウナとは一味違った趣があり、是非おすすめのスポットである。

旅をする楽しみのひとつに、初めて訪れる土地の文化や歴史を体感できることがある。今回のツアーでは九州五県にわたるコースであり、本来ならば数え切れない位の新しい見聞が期待できるところではあったが、何しろ短期間のことで、あまり多くは望めず、この点ではやゝ不満が残った。

それでも薩摩半島の南端部にある『知覧』という町の印象が強く残っている。というのも太平洋戦争の末期(昭和二〇年頃)この知覧が九州最南端の特攻基地となり、ここで訓練を受けた特攻隊員達が、次々に沖縄戦に向け南方洋上に飛び立って行ったという悲惨な史実を聞かされたことが、今でも耳から離れないからである。町の一角に、この悲劇の事実を正しく伝え、恒久の世界平和を願う為に建てられた「知覧特攻記念会館」がある。その中には、若くして南海上に散った特攻隊員(一〇三六人)の遺影や、直筆の遺書、また遺品等が数多く残されている。戦地へ向かう

途中で海中へ墜落したという戦闘機『飛燕』も展示されているが、海中から引き揚げられた損傷の激しい機体は見るからに痛ましいものである。見学者には、館長が飄々とした口調で、特攻隊員達の悲惨な歴史を説明されていたが、中にはそつと目頭を押さえる人の姿も見られた。

今回、九州を足早にぐるっと一周したわけであるが、九州の素晴らしい自然と雄大さを感じ何といっても数百年の間、枯渇する事なく涌出を続ける多くの温泉郷を見た時、改めて地球の持つパワーの偉大さを再認識させられた旅ではあった。

おわり



シルクロードを歩く

一木 慎司

ほぼ同じ年代に発祥した中国の黄土文明と
西欧アッシリア文明を繋ぎ、文明の発展に
寄与した道、『シルクロード』なんとロマン
に満ちた道だろう！』一度行つて見たいと
の願望を持っていました。



今回、第十七次大田原市民訪中団に参加し、
その夢を実現する事が出来ました。

一日間、蘇州市との友好交歓会を盛大に終
え、空路・上海↓中国の西端、新疆ウイグ
ル自治区の都市ウルムチへ五時間余。ウル
ムチ↓トルファン↓敦煌まで陸路、敦煌よ
り空路で↓西安城壁西門（シルクロードの
基点）まで、概ね二千六百kmに至る、新た
な体験、私を感じたままを記します。

見ると聞くとは大違い『来て、観ないと
判らない』アア来て良かった！が第一印
象。広大な国土、限りなく続く砂漠の地平
線、紀元前約四千年以上前より営々と築き
続けられた遺跡の数々、繊細で優雅な仏教
芸術、更に、厳しい大自然を最大限に利用
して生活している多民族の生活習慣、など
全てが私にとって新鮮な出会いでした。

ウルムチは大陸の真中、海に一番遠い都市
と教えられた。この地帯は有史以来、多民
族の生活圏で、常に侵略・略奪の繰り返しの
歴史が残されている。私見 一つの民族
が安全に生活する手段として、城壁文化・
武器を作る青銅文化・文字等が発達し、更
に宗教が民族の連携を担っていたと感じま

す。人間は生活する為の智恵と努力・連帯
を保つ宗教心が、後世に文化遺産として受
け継がれている史実に、人間の持つ力強い
生活力と潜在能力の深さに驚嘆！

高昌故城では、物売りの少女が流暢な日本
語で語りかけて来た。十一才です、学校で
日本語、英語を習っていますと満面の笑顔
で答えてくれた。トルファンの町中で出会
った子供達も、底抜けに明るく、笑顔が一
杯。決して豊かでない生活環境にありなが
ら、多民族の社会の生活習慣を確り、身に
つけた、心の豊かさから来るものだろう。
ガイドさんから、『天山山脈は宝の山』。

砂漠の中を貫通する国道は、上海まで四千
八百km、中国で一番長い国道です、と教わ
った。トルファン盆地の砂漠を走ると、砂
や岩が青銅色・赤褐色・濃紺色・緑色・真
白（これは岩塩）の変化が観られます。ト
ルファン盆地は全て内陸川で、全ての天然
資源が今もこの砂漠の中に蓄積され続けて
いると言える。正に砂漠も又、宝の山であ
ろう。

敦煌の莫高窟は、砂漠の仏教芸術美術館で
す。

幸運にも百年前まで砂に埋没していた事で、イスラム圏民族の侵略にも難を逃れ現世に甦った遺跡。西安の兵馬俑抗遺跡、共に世界遺産の超一級品。自分の目で観ることができた事は、末永く心に留まる事でしょう。

さいごに、今回の訪中を通して、中国から見れば、日本は東方の過疎地。文明の伝達が凡二千年後に、やっと到達し、日本文化の根源となつていると考えられる。日本は中国の砂漠地帯とほぼ同じ緯度でありながら、緑豊かな恵まれた国土である。然しながら急速な生活変化による、古き良き習慣が多く失われ、連帯性も希薄に成りつつある現在の姿、経済中心の生活から来る家族崩壊、平気で自然破壊をする。等に対し、“ほんとうに生きる”という原点を教えられました。経済社会にどつぷりと漬かつて生活している私に、新たな警鐘を与えてくれた旅であつたと感じています。

*内陸川…多くの河川が砂漠に流れ込んでいるのに、
全て砂漠の中で吸収され海まで流れ込まない川

『懐かしき映画題名物語』 中村義雄

まえがき

我が青春時代 日本映画は黄金期の真っ只中、よく見た映画ばかりを選択し創つた物語である。若かりし頃のあの場面、この場面を思い出しながら、すばらしい日本映画の数々、懐かしい俳優さん達、皆さんも何本か見られた記憶がおりでしよう。

遠く過ぎ去りし古き良き時代の日本映画を思い出してはいかがでしょうか。・・・

女の一生

遠く(富士山頂)の見える(青い山脈)の南の(鐘の鳴る丘)で、彼女の(運命の暦)は始められた。
(幼い手をつなぐ子等)が胸に抱いた(あの夢この夢)は(汚れた花園)で(三本の指の男)と(山猫令嬢)が(懐かしブルース)を踊って居た。(おしどり笠)を冠った(白い野獣)と(美しき豹)が(夜の門)の前で(天の夕顔)をむしっている。不思議なものだったりが、やがて彼女にも花開く(春のめざめる)時が来た(親馬鹿大将)は彼女は(大学の門)を出た(黒馬団七)と言う(噂の男)のある事に心付かなかった。それは(ある夜の事)だった。どちらから(抱擁)し

たのでもなく二人で見る星の下で(わが生涯の輝ける日)を記念して(緑の小箱)と(白粉帖)をとり交わした。しかしこの(秘密)も彼女が(受胎)を知ると共に(女の一生)の(舞台は廻る)、(第二の人生)が始まったのである。

ひそかに(旅装)をととのえた彼女は(我が愛は山の彼方に)とまっしぐらに東京へ(彼と共に去りぬ)(誰が為に金がある)のか、ある所にはあっても上京した二人は貧しかった。(ああいつの日か花咲かん)その時女だけの家に住む(好色五人女)のうち(駒鳥夫人)と(土曜夫人)は(われ泣きぬれて)いる彼女を(愉快な仲間)に入れようと(幸福への招待状)と(愛情診断書)を同封して送って来たが、(かりそめの恋)に(時の貞操)を捧げた彼女であつたが(夜の女)たちの(誘惑)を(それでも私は行く)とはねかえした。(愛情十字路)にあるアパートの一室に(幸運の椅子)の上に(恋する妻)を抱いた団七の喜びは(春の饗宴)の(酔いどれ天使)の様な夢心地であつた。この女の(面影)に窓に吊るした(オオムは何を覗いたか)(恥ずかしい頃)も過ぎてとどの終りは(お産の映画)(ああ誰か夢なき)

計 五十七本

終わり



日本からの参加者 二列目右から三人目が私

それは昭和五十七年（もう十九年前）九月の事。私は東京の友人Nさんに誘われてシンガポールでのF A W A（アジア婦人団体連盟）の総会に出席した。という大層立派に聞こえるがナニ野次馬である。

そのユーゴスラビア旅行の計画を立

「イラクの求婚」

富岡 堯子

てたのにツアー最終人数が二人、つまり私達しかいなかったので中止になってしまった。急遽Nさんの恩師が参加されるシンガポールツアーに滑り込ませて頂いたのだ。しかしそういうムリは必ずどこかに反動が出るもので、「民族衣装が見られるわね。私サリィを買いたい」とデザイナーの彼女。「ドリァンが食べたい」と私。――折角だから偉い人のお話を少しだけ伺って後ろの扉から逃げ出そう、いい按配にNさんの知人がMデパートの支店長をしておられるので町を案内してもらいましょう。という呑気な道中となる予定だったのだが。フリリッピン上院議員G女史の基調演説の後、廊下に出たら、午後の分科会の出席者の中にNさんと私の名が出ている。「これまさか私達じゃないわよねえ」と顔を見合わせたがやっぱり私達の事で、各国の国会議員や大学教授や弁護士が顔を揃えている会議室へ野次馬の二人も押し込められ、ドアが閉まった途端、サリィもデパート巡りもどつかへ吹っ飛んでしまった。その時の失敗談は「窓」に載ったが今回はその続編、否、番外編。

中近東の国イラクの総領事夫人も通訳官もつれて参加しておられた。スピーチを聴いていたNさんが「盛んにイラクのことを攻撃しているわヨ」と言ったがあまり気にも止めなかった。ところが最終日の前夜、ディナークルーズでお隣の席だった。私はお二人に気にいれられ楽しくおしゃべりしていたら「是非バグダッドへ来てイラクの男性と結婚してください」。(エッ、バグダッドって実在の都市だったのー!?)

私の記憶庫には昔観たアメリカ映画「バグダッドの盗賊」以外の情報はない。ベールを纏ったお姫様、ヒゲを生やした悪大臣、空飛ぶ絨毯、魔法のランプ。何がどうだろうと豚肉がタブーの回教国





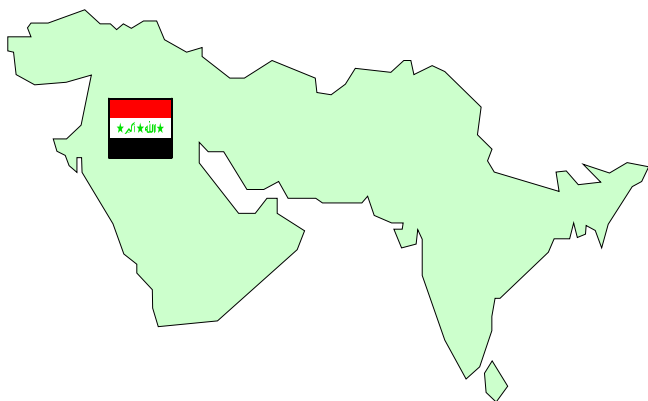
は私にとって問題外だが、そんな事言えるかどうか。下手に断って日・イ友好にヒビが入っては大変だと慌てる。助けを求めてNさんを目で探すと反対側のデッキでは、F A W A のモットーを具現して、シンガポール・マレーシア・インドネシア・スリランカ・フィリッピン・韓国・台湾と入り乱れて親善ダンスの真最中で、踊らにヤソソソと友達の危機など異次元の世界。私一人でこの重大な国際問題を解決せねばならぬ。「私は仏教徒なので」と丁重にご辞退申し上げた。お誕生は神社で結婚は教会で、葬式はお寺で、などとシリメツレツな日本人と違って相手は世にも厳格な戒律の下にある筈。我ながら名案と一息つく。ところが、とこ

ろが、イスラムの女性は異教徒と結婚できないが、男性は結婚できるんですって！！（あまりの都合の良さに、海におつこちそうになった。）

帰国して妹に「お姉ちゃま断わるのに大汗かいたわ」「何も断わらなくても良かったのに」と妹。「だってイスラムの国じゃ、大好きな豚カツライスは食べられなくなる」と不動の信念を吐露する私。「金やダイヤで飾られるのなら豚カツライスクらい我慢すれば？」と何かとんでもない誤解をしている妹。

毎年九月十五日（敬老の日）は我がJ A C I（日米会話学院）のクラス会（ミンクのコートが無いから出席できない、などという事のないようこの日に定めた）で一年に一度顔を合わせて情報交換をする。早速、例の国際的仲人口の件をご披露に及んだら一同の反応は愚妹よりもヒドイ。「惜しかったわネ」「今頃はお供を連れて歩いていたんじゃない？」——（ナ、何を考えとるんじゃない、コイツらアは?!）独立して翻訳と通訳の仕事をしているKさんは某有名大学の令嬢だった筈。いつも自然体のにこやかなHさんは、やんごとなくも美智子様（当時皇太子妃）の義妹にあたらせられるとか。つまり当代トップクラスの知性と国際感覚を

つけているべき面々が、私同様「バグダッドの盗賊」以上の知識は無いと知ってガク然、啞然・・・。果して、かの悪名高き「湾岸戦争」が始まり誰が一番マトモであったかが判明したが。アラビヤナイトの幻想が砕け散ってしまったのは少々残念な気がする。悲しい事に私の賢明な判断のモトになった豚カツライスを提供してくれた駅前の小さな食堂は、退職してしばらく行かないでいたら、何時の間にか店替りしてしまっていた。



ひとりじゃない

平山ミチ

日光の某ホテルで内務の仕事を三日から四日働くと帰宅それが毎週続く、その一日がなんと十六時間から十七時間働かされる、働かざるを得ない。

人員が少なくて常務や支配人は下からの愚痴にすまん・すまんと今回だけはこの口癖で、使いが荒いせいも人員の確保が出来ない。だが私はなんの抵抗もなく仕事に励む、帰宅すれば農作業が待っている。

秋なら大豆や小豆など収穫し、次回はタクアン大根を洗って干す。逐次仕事は山積みしている。

それを念頭におきながら又いろは坂に登る。子供達や姉妹がいるのは坂の運転を禁止しているにも拘わらず私は、働く事が趣味だからなど冗談を言っているのは坂を登る。

ところが私の身体にも異変が現れた。秋の疲れもあってか食欲が無くなった。平成十一年十一月塩谷病院へ何回となく通院して検査を受けた。

異常は無いが病名が解らないから入院して検査する様言われ十二月に入院した。

暮れも正月もなく連日の検査一月上旬四十分近い高熱が連日続く、解熱剤を注入、時には血圧が低い為解熱剤の注入が出来ず体外各所を氷で冷やす。私はこの熱の出る原因を早く見付けて下さいと医者に頼む。食事は取れ

ず体重は二十キロも減った。

点滴も腕から(痩せているので)注入出来ず首の動脈から注入される。

一体病因はどこにあるのか不安でならぬ、動物実験でなく、人間(動物)を実験台に乗せて実験しているのではと疑問さえ抱くようになってきた。

一月下旬泌尿科へ転移、検査の結果腎臓に腫瘍が出来ている可能性がある。検査の結果毎に子供達は医者と呼ばれて説明を聞く。可能性とは何パーセントですかと娘が問うと解りませんパーセントも病名も解らない。患者は一体何者なのだ私は怒りさえ感じるのだった。

娘は片道四十分もの道のりを毎日見舞っては洗濯物を持ち運ぶ。息子達は市内と都内より毎週土・日にはどんなに忙しくても、又ベットのそばに僅か三十分位しか居られなくても見舞ってくれる。

顔を見なければ安心出来ないと言う子等に対し、勝手な事を言っていて居た自分を今さらの様に恥じるのだった。

私ひとりじゃない病めばみんなに迷惑かける・二月末検査の結果異常がないから退院して通院しながら検査する事で退院した。

ある説では病気は治すのでなく自ら放つものだと聞いて、何だか実感が湧いてきた様な

気がした。帰宅したら福寿草と水仙が私の退院を待って居たかの如く東風に揺られて咲いて居た。

退院の吾れを待ちしか

如月の庭に咲き居る

福寿草と水仙

それから一年、大田原市の日赤病院へ転院し通院しながら健康を管理し、いくつもの趣味に励まされながら活力を生み出し自分らしく生きて行きたいと思っております。

古希の手習いで社友会のパソコン同好会にも入門しました。どこまで続くか? いけるか? 乗り出した船だ港へ着くまで挑戦してみます。

この節自古希つと析らず春を待つ

去りげなく古希の山路を登る春

おわり



早川電機入社と 国産テレビ第一号

春山 丈夫

『日光』第六号で浦川支部長の追悼記「服部正夫さんを偲んで」を拝見した。往時のフライバックトランスや偏向コイルの話が彷彿として想い出される。その続きを書きますよとお約束したことであった。

私が服部さんと、最後にお会いしたのは平成九年八月テレビ朝日放映の「国産テレビ第



左 筆者 右 故服部 正夫氏

一号」の取材であった。

服部さんは社友会誌に「私の記録ーシャープテレビ完成まで」を綴る笹尾さんと私を連載されていた。

これが人間発掘スペシャルのストーリーとなった。

日本のテレビの父・高柳健次郎教授、早川徳次創業者、笹尾三郎研究部長のお三方の物語が続く・・・この番組に出演された吉江さん、服部さん・仲間であった内藤・経澤・鶴田・角野の諸兄も既に鬼籍にはいられた。当時を語る人も少なくなり、昨年十二月、日本工業新聞の取材があった。二十世紀・二十名の経営者のお一人、早川徳次創業者を語る連載記事。決断力にドッジ不況の時の労組活動や笹尾さんのテレビ開発の苦心談が登場する。私が早川電機に入社したのは昭和二十三年四月である。浜松高工に在学中、高柳教授の特別講演を聞いた。笹尾先輩の恩師・上吉原教授からテレビ開発要員として推薦された。配属は研究部試作課ここで機械関係担当の内藤さん、一年後には経澤さんとの出会いである。早速、スピーカー糊付け機やトランス十個巻・巻線機を作った。

当時、服部さんは研究部次長であり、労組の副支部長もされていた。文化活動も盛んで、

田辺キネマを借り切ったの演芸会である。

主役は(故人) 保田さん・沢井さん、若手の浦川さんたちの演芸を覚えている。のど自慢も拍手喝采だったと思う。

昭和二十五年ドッジ不況の時は給料が二カ月遅配した。

労組三役でもある私は遅配対策に疾走した。生活困窮者へ危機突破資金の配分をめぐっては委員会総立ちとなった。

やがて朝鮮動乱特需で無線業界は立ち直る。不況脱出を連載記事は生々しく語る。

テレビ研究の再開。笹尾さんの陣頭指揮でテレビ試作機が見事に試験電波をキャッチした。

シャープニュース昭和二十七年四月号には服部・穂積・角野・広田・宇治さんが並んで回路調整する表紙写真が載る。

服部さんのご指導で電子部品作りがはじまった。電子チューナ・フライバックトランス・偏向コイルの量産である。偏向コイルの巻線機は、笹尾さんのコップパン型捲棒の抜群のアイデアが成功を収めた。

この模様を伝える番組に再び出演した。昨年末の十二月二十七日毎日放送・関西二十世紀スペシャルで、宇治さんと私が国産第一号テレビを語る。世紀末を飾ったのである。

おわり

那須野ヶ原開拓の歴史

山路 規生

民族の大移動第二陣で、大阪からこの那須の地に移住したのが昭和四十八（一九七三）年の三月、以来十八年、冬の寒さを除けば住み易く大

変気に入っている。

那須は、日光と並んで栃木を代表する観光地で全国的に有名である。住所を見た丈で「いい所に住んでいるね」と、よく言われるが、周囲が

別荘地とでも想像しているのであろうか。大変光栄である。

那須野ヶ原については、三十年近く住んでいても「明治の初めに印南丈作、矢板武の両氏が那須疏水を作った開拓が始まった」この程度のことしか知らない。

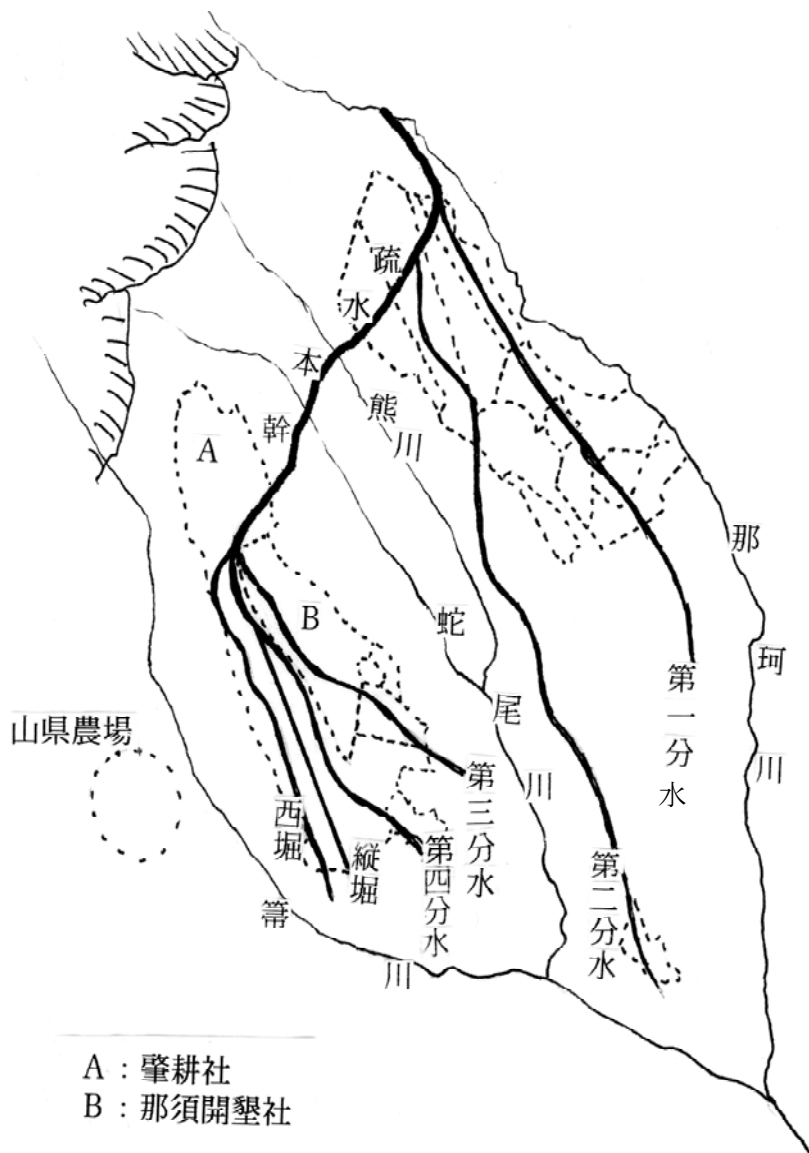
那須野ヶ原の範囲は、時代によって異なる様であるが、現在では広義には箒川以北、黒川迄を、狭義には箒川と那珂川に囲まれた木の葉状の扇状地（これを那須扇状地と言う）が一般的である。

蛇尾川・熊川より黒磯側を那須東原、西那須野側を那須西原と呼ばれている。

この那須野ヶ原に、いつ頃から人が住み付き、開拓が始まったのであろうか？

那須野ヶ原には縄文中期（五〇〇〇年前）の遺跡があり、その内西那須野町には四ヶ所となっていたが、その後の調査で大小合わせて二十二ヶ所の遺跡が確認されている。

この内でも槻沢（ライスラインの下にも遺跡が眠っている）と井口（四号



A : 肇耕社
B : 那須開墾社

線を挟んで反対側)、の遺跡は大規模で住居跡・縄文土器・石器が発見され、出土した土器は、国の重要文化財に指定されている。

時代は一気に下って、昨年、西那須野町は開拓百二十周年であった。前述の様に、那須疏水が出来て開拓が進んだ訳ですが、一二〇年前の一八八〇(明治十三)年に何があつて「開拓元年」としたのであろうか。

過去、それぞれの時代に生活用水を求めて小規模の「用水」が作られた様であるが、江戸時代にも七本の用水が作られており、この内で最も古いとされているのが、慶長年間(約四〇〇年前)の臺沼用水で、蛇尾川の上流から太田原迄、今も健在で乃木神社の前を流れている。

江戸時代が終わって明治になり、新政府が「殖産興業」の為、早々と明治二年に「開拓局」を設けている。

その頃、佐久山の印南丈作と、矢板の矢板武の出会いがあり、那須野ヶ原開拓で共感し、明治十三年「那須開墾社」を創設した。

印南丈作四十九才、矢板武三十一才の時である。

それより少し早く、三島通庸も同じく「肇耕社」を創設して、組織的に第一鍬を入れ開拓をスタートさせた。今から百二十年前の事である。かくして那須野ヶ原の開拓が動き

出したのであるが、ここで印南・矢板両氏の誕生から出会いまでに触れてみたい。



印南 丈作

印南丈作は、一八三一年(天保二)年七月十五日神山長兵衛の長男として生まれる。幼名は

源太郎。二十三才の時、佐久山宿で旅宿大玉屋を営む印南丈七の養子となり、名を丈作と改めた。人情・公共の志に厚く、又殊に殖産興業に熱心であつた。認められて領主福原内匠の信任を受け藩政に参画した。

戊辰戦争の時、会津討伐に参戦し会計の任に当たる。戦争終結後、佐久山藩は功により白河城下の租税取締を命じられ、印南が委嘱され白河に赴いた。この時、参与大久保利通に租税の半減を懇願し許可され領民の困窮を救い大いに感謝された。

その後、佐久山宿の名主、近隣八ヶ村の総代、宇都宮県七ヶ村の戸長、小区取締その他多くの要職を歴任し、明治九年九月に栃木県勸業課附属の所屬となった。

一方、矢板武は、一八四九(嘉永二年)坂巻五衛門の長男として矢板村に生まれる。幼名は七五郎。坂巻家は



矢板 武

武兵衛とし、明治になってから武と改める。

後に矢板姓に改めた。一七才で矢板村の組頭、二十才で名主の後九ヶ村の名主頭となる。

その後も宇都宮県の副戸長、更に栃木県の副戸長、副区長、区長の要職を歴任し栃木県勸業課附属となり、印南と机を並べる事となった。附属とは、県内の産業発展の為官と民の間に立って進めるもので、正に適役である。公用のため太田原を往復する度に、荒涼とした那須野ヶ原を眺めて開拓の必要性を痛感、その為には「水」であると、印南と会う機会には良く語り合った。

(次号へつづく)



ヨルダンEメール便り

西村 光二

JICAへ入団し、4月初旬にヨルダンへ赴任された西村氏からEメールが届いていますので、ご本人のご了解を得て、一部を誌上公開します。

我らのアラビアのロレンスに幸いあれ!! Bon Voyage !! (三友)

4月13日

社友会室で、Eメールの送受信可能との連絡有難うございました。私は6日からヨルダンに着任しました。いよいよヨルダンでのメールアドレスが決まりました!

nishimuk@go.com.jo です。

昔と余り変わらないアドレスなので皆さんにもすぐ覚えてもらえると思います。

17人の集団でヨルダンへの途中パリで一泊したのですが、早速ホテルのエレベーター内部で車つきの旅行かばんからパスポート、航空券と現金を盗まれた人が一人。ホテル近くの路上で絡みつかれて倒されてお金を取られた人が一人。かばんを開けられた人が一人と派手に被害に会いました。今パリは日本人のパスポートを狙う集団が大活躍しているらしくて日本大使館には10数人の人がパスポートを盗まれて再発行の為、列をなしていたということです。パリに旅行を計画している人はご用心ご用心～～～!!!!?

私は娘と久しぶりに腕を組んでルンルン気分で楽しい2日間を過ごしました。娘は綺麗でしっかりしていると皆から大好評でした(鼻高々!)

今日からはアラビア語の研修が始まりました。つい2年弱前まで日常親しんだ言葉なので苦労は無いのですがやはりエジプトやリビアのアラビア語と少し違います。だけどもマフィーシュ ムシケラ(問題なし。虫けらではないぞ!)では今日はこれまで。社友会の皆様(特に仲谷さん)にもよろしくお伝え願います。

4月20日

今日で一週間に渉るアラビア語の研修が終了しました。同時に午後からあったJICA事務所での事務処理の研修も今日で終わりです。明日(金曜日)、明後日(土曜日)は休みで、22日から派遣先であるVTC(職業訓練校)の本部(VTCは全国に何箇所か訓練校がある)で又2週間のオリエンテーションがあります。繰り返しつつこく研修、オリエンテーションで仕事は一向に始まりません。この研修が終わるとやっと実際に働く訓練校に配属となります。

こちらに来てから生活費の改定が発表されて33万円から26万円に減額されてしまいました。(国家公務員の給与改定に準じた処置)住居費は2千ドルで変更は無かったけども来年は10パーセントくらいは減額される見込みとの事なので、それに備えて、最高でも1800ドル/月以下で探さなければなりません。しかもアパートは家具付きで借りるので、家具分として賃料の10パーセントは自己負担(即ち生活費からの支出)となります。

砂嵐の季節の為今日も朝から砂が空中に舞い上がり曇り空のようになりました。しかし今のところエジプト、リビアに比べればたいしたことはありません。

食べ物やはり日本とは大きく違う味なので、皆だんだんと胃が受け付けなくなり中華料理に出かけることが多くなりました。以上、今日はこの辺で終わります。

4月28日

今日はアンマンの環境等に付いて書きます。アンマンは高度880メートルの丘陵地帯
(アンマンの東側にあるローマ劇場。)



に有るため空気は澄み、乾燥して居て、空はいつも澄み渡り、大変快適です。夏は40度を越える日が有るものの乾燥して居るため快適だと言うことです。しかもカイロと違い砂嵐はひどい事は無く、去年は無かったと言うことです。しかし、冬は雪が2度ほど降ると言うことです。

全国の人口はパレスティナ難民を含めても430万人のため、アンマンの人口も百数十万人と少数です。この町の様子は清潔で生ごみが路上に散らかっている等と言う事は殆ど有りません。ヨーロッパからの輸出品

も多く、カイロには無い輸入品が多く有ると言ってカイロから買い物の為に通っている日本人主婦も居ると言うことです。

4月30日

今日アパートの契約を住ませてきました。アパートは3寝室、居間、食堂、キッチン、3バスルーム。家具、食器、台所用品、ベッドシート付きのフルファーマニッシュ。

5月1日

今日、予定通りアパートに入居しました。別送荷物が未だ届いていないので、自炊するなど、本格的な生活には入れないけどやっと一段落です。4月も末日と言うのに今日は午後から断続的に雨が降っています。今も盛んに雷が鳴って降って居ます。朝から厚い雲が垂れ込めていたので危ないかなーと思っていたらついに降りました。雨がぱらぱらと降っている時に傘をさした所、傘が乾いたら、雨粒の跡に砂が一杯付いていました。

エジプト時代から、雨が上がった後自動車が砂まみれに成っているのは砂埃の性だと思っていましたが、雨に大量の砂が含まれているのが原因で有ることに今日初めて気が付きました。今年ヨルダンでは異例な気候のようです。

アンマンでは水道は一週間に一日だけ給水されます。従って、各家毎に大きな水タンクが付いています。私のアパートの場合は、私の家だけの為に、地下に9立方メートル、屋上に2立方メートルのタンクが付いています。

何故週一回の給水にするのか？ 慢性的な水不足？ 回答は全く違う理由です。アンマンの水道配管は老朽化して、配水の40パーセント位が漏水となって消えてゆくといわれています。この漏水を減らすためにアンマン市内を区分けして、各地区毎に週一回の給水とし、水が来ている間に各家で、一週間分をタンクに溜めて置くと言うわけです。さて水問題のついでに水洗便所に付いて。

アンマンでは水洗便所が普及して居ます。しかし、用便が終わった後でお尻を拭いた紙はトイレに流す事はほぼ禁止状態です。従って、用便の後はビデ又はホースでお尻を洗い、その後でお尻を拭いた紙は、トイレに置いたくずかごにすてるのです。理由は建物の内部の配水管が詰まるからと言うことです。今日はこれまで。

クラブ・同好会のページ



(記 生嶋)

晴天の下ゴルフコンペ開催
三月二十二日(木)塩原CCで、ゴルフ同好会通算二十七回、今年最初のゴルフコンペを行いました。
晴天に恵まれ参加者十八名(初参加三)全員ゴルフを堪能しました。砲台グリーン・三角山から流れる芝目・砲台風等でスコアメイクに苦戦しましたが、手堅く八〇に纏めた。住吉幸人氏が優勝を飾りました。

三月三〇日(金)晴天。今年初めての早春ハイキングを参加者五名で実施しました。足取りも軽やかに、上り下りの尾根歩きの一時間コース、山頂での展望がよく、登山気分も十分味わえた。カタクリ群生地の中の斜面一帯は、ピンク色に染まった花のジュウタンを見て感激もひとしおであった。

(記 中村 茂)

第八回歩こう会 カタクリの三轟山

みかも



撮影会のお知らせ

カメラクラブ

標題の件、下記のように実施します。身近で近場なので多数参加をお待ちしています。

場 所 那須野ヶ原公園

日 時 平成13年6月12日(火曜日) 午前10時(那須野ヶ原公園の管理事務棟)
昼食持参でも良いが現地の食堂等で食べる予定
解散午後3時頃の予定

費 用 各自食事程度で不要

参加申し込み

参加予定者は前日までに世話人宅へ電話で一報下さい。

世話人 徳田 浩(Tel 0287-44-1787) 田中 勇(Tel 0287-36-3915)

新入会員のご紹介

- ① 会員番号
- ② 氏 名
- ③ 生年月日
- ④ 住 所
- ⑤ 電話番号

《メッセージ》



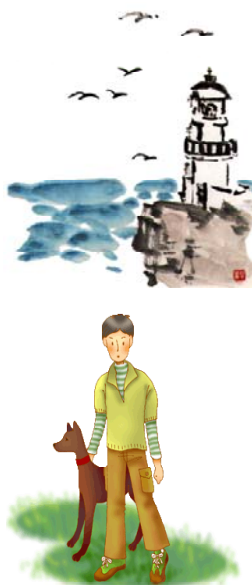
- ① 1812
- ② 富岡正雄
- ③ 昭和16. 1. 2

生まれは西田辺、育ちは矢板の電子機器事業本部、最後の六年間は幕張ビルで仕事。図らずも世紀の変わり目に、矢板に戻って来ました。社友会メンバーの末席に加えて頂き、今後とも従前通り宜しくお願い申し上げます。



- ① 1843
- ② 阿部修一
- ③ 昭和16. 2. 6

二月六日付で、社友会に入会させて頂きました。在任中は、諸先輩方のご尽力とご指導をたまわり誠にありがとうございました。今後とも諸先輩のご指導を頂きながら、有意義な第二の人生を過ごしたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。



- ① 1844
- ② 鈴木紘一
- ③ 昭和16. 2. 15

今まで会社に精一杯の毎日でしたが、これからは大自然の中で家庭菜園を自然食を食べたり、スポーツなど様々な趣味を広げて、第二の人生も楽しく送りたいと思います。



- ① 1881
- ② 中野武久
- ③ 昭和16. 3. 21

諸先輩各位 第一の人生を国内外で、各々二十一年間に亘り歩み、お陰様で実り多い人生を過ごす事が出来ました。二十一世紀に入り、縁有って、東京で特許情報サービスマンとして、今までと全く異なる世界で、一月十六日から第二の人生をスタートさせ、歩み始めました。小生の心の故郷は、テレビ、栃木におられる諸先輩の方々と、第三の人生は矢板で過ごす設計で、自宅も残っています。時々、綺麗な空気とゴルフを求め、矢板に帰ります。早々、綺麗で、宜しく引き回しをお願いします。



- ① 1882
- ② 広島好美
- ③ 昭和16. 3. 27

一九八九年一月栃木工場から、八尾、新庄、市ヶ谷と勤務し、三月二十七日に定年退職しました。今後一日も早く先輩諸氏の皆様方と行動が共に出来る様努めて参りたいと考えて居ります。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

液晶で...のある生活。
SHARP

20世紀に、何を見ましたか。

21世紀に、何をみませんか。

SHARPは、すべてのテレビを液晶に変えていきます。ようこそ、液晶世紀へ。

AQUOS

栃木支部 物故会員

〔ご冥 福をお祈り申し上げます。〕

会員番号	御 名 前	御 逝 去 年 月 日	享 年
1388	蔵 橋 敬 二 様	平成12年 8月20日	61才
822	藤 森 常 佑 様	平成12年 8月25日	64才
454	近 部 英 彦 様	平成12年 9月 7日	68才
1235	平 野 明 様	平成12年11月24日	62才

編集後記

● 栃木支部会報8号が、計画通り、発行できましたこと、編集子一同、安堵の胸を撫で下ろしているところです。

▽ 会報第7号から、社友会室で、編集委員全員でメビウスを使って作成をスタートしましたが、産みの苦しみで進行が予定より一ヶ月ほど遅れたものの、何とか期日に間に合わせ、会員のみなさまにお届けできました。後遺症で8号の着手が遅れ、編集委員全員で、追い込みを掛け何とか間に合わせる事が出来ました。

◆ 編集の過程で全編集委員のパソコン操作の実力がめきめき上達し、処理能力が一段と向上しました。キーボード入力、レイアウト処理、OCR文書入力、画像の取り込み等々。

★ 支部会報の制作は、このようなPC操作能力を磨くにはもったいも適切な教材と考えます。編集の過程で、PC本体の操作のみでなく、プリンター、スキャナー、インターネット、Eメールなどの処理方法も、お互いに知っていることを教えあひながら、切磋琢磨することで、各委員の実力が飛躍的に向上しました。

■ PCをお持ちの会員で更に使用方法的な幅を広げてみたいとお考えの方は、是非編集委員のメンバーに加わり会報の編集に係わってみられてはいかがですか？。定員の制限はありませんので、ご希望の方は、中村事務局長にご連絡下さい。

(編集子一同)